

C—21 股関節運動による下肢寸法の変化の測定

米沢女短大 ○徳永 幾久
山水 きぬ
石山 和子

1. 作業被服学の指導にあたり、その根拠となる「衣服の機構と人間との関係」の基礎資料が少ないので、静止及び運動時の人体計測を行ない結果を資料として報告してきたが、今回は、股関節運動による下肢寸法の変化の測定結果を報告する。

2. 資料は現在の大学女子学生基準寸法に適合し正常脚のもの10名を本学学生より選出し、42年東北家政学会で発表せる「運動時に生じる下半身寸法の変化の測定1. 2. 3 報」を参考にし、股関節運動による肢位〔1〕屈身（屈曲 45° 、 90° （A） 90° （B） 150° 伸展 210° 〔2〕軸旋（内旋 60° 外旋 60° ）〔3〕分回し（内転 30° 外転 30° ）の（1）下肢前面稜線（2）後面稜線（3）外側中心線（4）内側中心線および股関節囲、大腿囲、膝蓋骨頂点囲、腓腹囲、足首囲、踵囲の周径、長径、幅径（投影、実長距離）厚径（投影、実長距離）について40項目660計測点を計測し、その運動によるそれらの伸縮率と、更に下肢前面後面の左右中心点の移動率を108計測点について計測した。

3. 各部位共屈曲運動に変化を示し、周径では大腿囲前面内側が19.5%伸長し中心線は内側に3.6%移動、後面では内外側共収縮を示し中心線は運動により内又は外側に移動、腓腹囲は後面内側が伸長大であるが中心線は外側に移動。長径も前面で膝関節囲～腓腹囲42.8%、後面で股関節囲～大腿囲95.9%の伸長。幅径厚径共屈曲 45° の伸長率が最大である等肢位による各部位の伸縮率を報告する。